

■ 事業のセールスポイント

周辺自治体との都市間連携により広域防災データ(ワンコイン浸水センサー等)の広域利用等に関する検証を行うとともに、PLATEAUを活用した加古川駅周辺エリアのスマートプランニングやAIカメラによる危険運転検知に係る検証を行う。

■ 対象区域の概要

名称	加古川市全域
面積	約 138 km ²
人口	約 25.7 万人

位置図

自然と歴史にあふれる東播磨地域の中核都市



■ 都市の課題

- ✓ 都市防犯力の向上
- ✓ 都市防災力の向上
- ✓ 自治体の枠を超えた広域サービスの展開

- ✓ 今後の駅前再開発を見据えた、加古川駅周辺の賑わい創出

①広域防災

②スマートプランニング

③次世代見守り

■ 解決方法

①広域防災

- ✓ 土砂災害関連データ等の新たな防災データ活用や、都市OSの広域共同利用調査・試行を通じて、サービスの付加価値向上を実現

②スマートプランニング

- ✓ 3D都市モデルを活用したVRモデルを活用することで、円滑な関係者の合意形成や、スピード感をもったまちづくりの実現に寄与

③次世代見守り

- ✓ 事故リスクの高い市内の3箇所にAIカメラを新規設置し、交差点での危険運転車両の検知・注意喚起を検証。今後の交通事故防止対策の関係者協議に活用予定

■ 運営体制

推進主体：かこがわICTまちづくり協議会

加古川市

株式会社 日建設計総合研究所

総合警備保障株式会社

株式会社フューチャーリンクネットワーク

株式会社長大

パナソニック株式会社

■ KPI(目標)

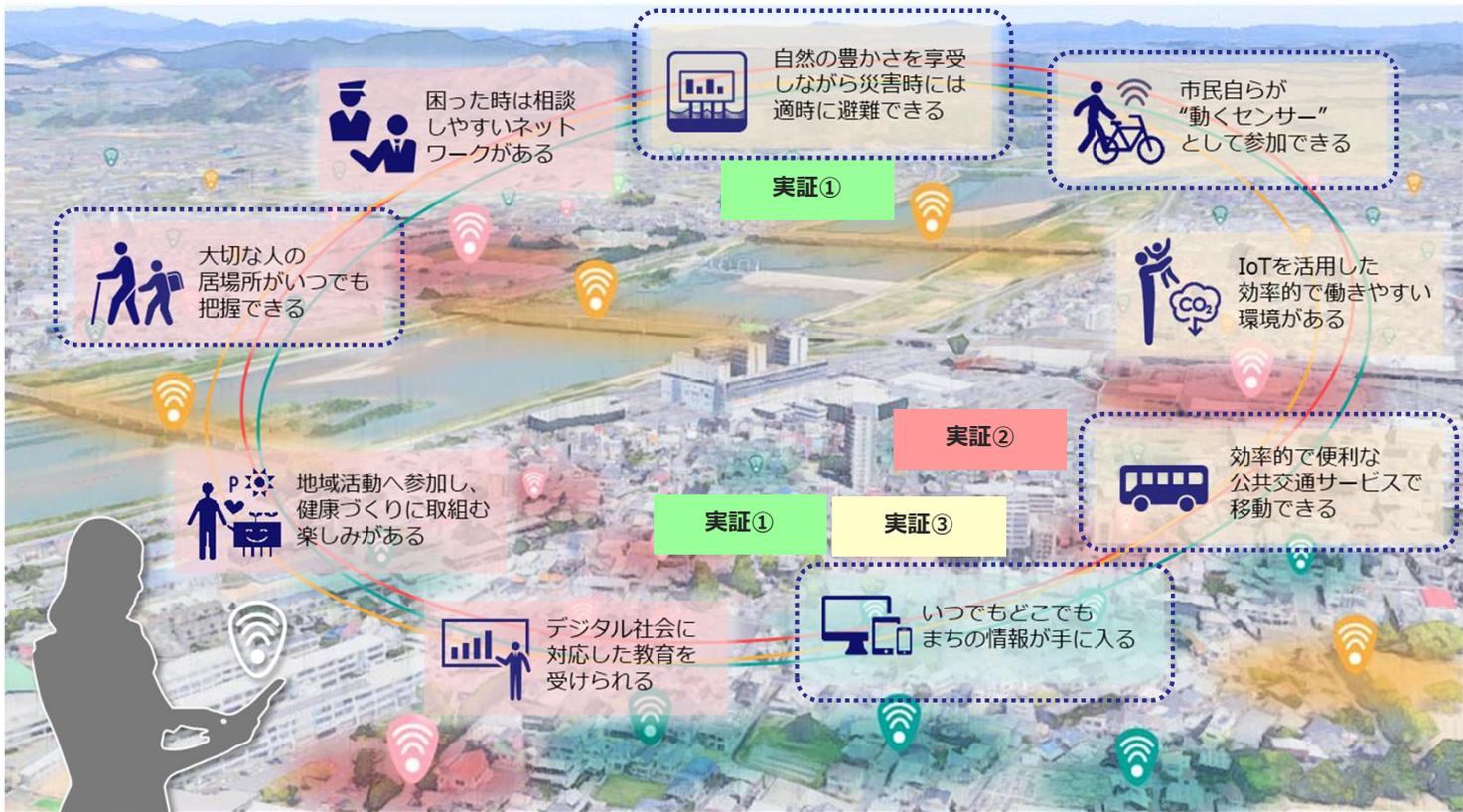
実証	KPI	目標値	目標年次
①広域防災	地域の防災体制への満足度	65%	R8年度
②スマートプランニング	加古川駅周辺の都心魅力の満足度	60%	R8年度
③次世代見守り	地域の安全対策への満足度	65%	R8年度

■本実行計画の概要(実証メニューのロードマップ)

取組内容	2022	2023	2024	2025	中長期
【①広域防災】広域防災力の向上(ワンコイン浸水センサー活用等)	実証	広域実証		実装	継続
【②スマートプランニング】3D都市モデルを活用した加古川駅前再開発に向けたスマートプランニングへの展開(VRモデルの構築)	開発	実証	拡大実証	実装	継続
【③次世代見守り】次世代見守りサービスの展開 ～AIカメラの活用(①交通量計測、②危険運転検知)～	導入整備 (①)	実証 (②)	拡大実証 (②)	実装	継続

誰もが豊かさを享受できる スマートシティ加古川
～「幸せを実感できるまち加古川」の実現に向けて～

【市民】 市民のQOLや利便性を向上するサービス 【まち】 都市機能の強化や都市課題の解決 【行政】 デジタル行政の推進



- 【①広域防災】 広域防災データの一元集約化と利活用による広域防災力の向上
- 【②スマートプランニング】 3D都市モデルを活用した加古川駅前再開発に向けたスマートプランニングへの展開
- 【③次世代見守り】 AIカメラのセンシングデータ(危険運転車両検知)を活用した次世代見守りサービスの展開

■ 実証実験の内容

①広域防災

- ✓ ワンコイン浸水センサー(既設)、県の水位等データ、市の土砂災害関連データ等の一元集約・ダッシュボードでの可視化、都市OSの共同利用調査・試行
- ✓ 市内に地盤傾斜計・土壌水分計を設置して土砂災害データを集約・活用



ダッシュボードイメージ

②スマートプランニング

- ✓ 3D都市モデルにアーケードや歩車道、街路樹などの都市空間構成要素の情報を補完し、現況モデルを構築
- ✓ 将来モデル(素案)を整備し、現況モデルと統合してVRモデルを構築(点群データ等の活用も検討)



ベースとする既存パース

③次世代見守り

- ✓ AIカメラで事故等交通安全リスクの高い市内3箇所でのデータ取得、都市OSデータ連携、データ分析・検証
- ✓ 交通安全対策に向けた活用検討



■ 実証実験で得られた成果・知見

①広域防災

- ✓ 地盤傾斜計・土壌水分計を市内設置し、新たな防災データの活用可能性を検証・確認。



土壌水分計



地盤傾斜計

②スマートプランニング

- ✓ 今回のVRモデルを活用した、「2040年の加古川駅周辺を考える若者ワークショップ」を開催し、意見交換の活性化に寄与することを確認。また、WSの成果も踏まえた、駅南広場のリニューアル案に関する予算措置も実施。



若者WS



庁内WG

③次世代見守り

- ✓ 事故リスクの高い市内の3交差点にAIカメラを新規設置し、交差点での危険運転車両の検知・注意喚起など一定の効果が期待できることを確認。 3か所設置
- ✓ 交通誘導員や庁内ヒアリングし、期待感を確認。



- 【①広域防災】出水期を見据えた今回構築したアセット活用・運用方法の検証(広域防災サービス連携含む)
- 【②スマートプランニング】加古川駅前再開発に向けた関係者合意形成のためのVRツールの活用シーン拡大
- 【③次世代見守り】交通安全に取り組む関係者の高齢化や担い手不足等を見据えたツール導入検証

■ 実証実験で得られた課題

①広域防災

- ✓ 各種センサの設置やダッシュボードの可視化を通じて、データを集約して可視化すると一定の成果が期待できるとの庁内意見が得られたため、本アセットを活用した発災時の判断・運用フローが次なる課題。
- ✓ 今後、広域連絡会における土砂災害関連データを活用した広域SCサービスメニューの追加も検討予定。
- ✓ また、本情報の公開範囲や取扱いの検討が必要。

②スマートプランニング

- ✓ 地域住民との合意形成や一般市民とのディスカッション、その議論の成果を可視化するプラットフォームづくりを通じて、市民の納得感やスピード感をもったまちづくりの実現が課題。
- ✓ そのための活用シーンの拡大や、市が導入している関連ツールとの連携も有用。

③次世代見守り

- ✓ AIの解析精度の確保と、今後の学習効果による精度向上に関する検証が必要。
- ✓ 交通安全に関係する関係者への取組周知・認知度向上と具体的な活用方策の検討が課題。

■ 今後の取組:スケジュール

取組	2024	2025	2026~
①広域防災	拡大(広域)実証 ・庁内での出水期を見据えた具体運用検討(発災時の判断・運用フロー等) ・広域連絡会での新たなサービスニーズの把握	実装	継続
②スマートプランニング	拡大実証 ・今回開発したVRモデルを活用したワークショップ開催や、既導入済みのDecidim(市民からの意見集約)との連携を想定	実装	継続
③次世代見守り	拡大実証 ・誘導員などの取組を支援するための方策検討 ・警察への取組共有(潜在的な事故リスク)、交通安全性の向上に係る意見交換(交差点の改良要否の検討等)	実装	継続